

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：32678

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653116

研究課題名(和文)財務報告における環境負債情報の開示を規定する要因の研究

研究課題名(英文)A study of determinant factors of environmental liabilities disclosure in financial reporting

研究代表者

野田 昭宏(NODA, Akihiro)

東京都市大学・環境学部・講師

研究者番号：40350235

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、財務報告における環境負債情報の開示水準を規定する要因を解明するための理論モデルの構築と定量分析を実施し、3つの主要な研究成果を得た。(1) 環境負債情報の開示実務が、行政機関による環境汚染の規制に依存して形成されるモデルを構築し、企業活動から生じた汚染が放置される可能性を示した。(2) 環境負債認識における債務性概念の形成が、企業の資金調達におけるコミットメント戦略から影響を受けるモデルを提示した。(3) 環境負債に関する会計規制が経営者インセンティブを変更し、環境汚染規模を拡大する可能性があることを示した。

研究成果の概要(英文)：We explore corporate financial reporting incentives for environmental liabilities. We analytically examine the determinants of environmental liabilities disclosure. We establish that corporate environmental liabilities disclosure is evolved in an environment that environmental agencies impose litigation risk on firms with environmental obligations. Further, we find recognition criteria of environmental liabilities is affected by corporate commitment strategy in debt contracts. We also show that accounting regulation about environmental liabilities affects managerial incentives related to environmental management and increases corporate environmental contamination.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：財務会計 環境負債

1. 研究開始当初の背景

近年、企業活動の環境側面に関わりをもつ財務報告制度の拡充にともない、財務諸表上に開示される環境関連情報が増加しつつある。しかし、現状では、環境汚染に関わる財務報告には、企業間によって多様な会計実務が観察されている。これは、(1) 環境負荷に関わる財務報告の企業間の多様性が、証券市場における投資決定にどのような影響を与えているかという疑問と、(2) 財務報告における環境関連情報の開示が、企業間で異なっているのはなぜか、という要因解明の疑問を提起している。特に、後者は、企業の環境負荷に関わる動機解明を通じて、環境負荷を抑制する経営決定を誘導する目的から財務報告制度を設計する場合に不可欠な基礎的知見を提供するものと考えられる。しかし、現在のところ、企業の環境負荷に関わる会計報告の意思決定については理論的な研究蓄積が十分になされていない。

2. 研究の目的

本研究は、(1) 財務報告を通じた環境負債情報の開示決定に及ぼす要因を解明するとともに、(2) 環境負債に関する会計規制が導入された場合に企業の環境負荷に関わるインセンティブをどのように変化させるかを解明することを目的とする。持続的な経済発展を前提とする企業活動を促すためには、企業活動の環境側面に関する透明性を確保することが不可欠であり、企業の財務報告を通じた環境汚染情報の透明性を高めるメカニズムの理論的解明が重要になってきている。これらの研究課題を明らかにし、財務報告制度の設計に資する知見を提供するのがねらいである。

3. 研究の方法

本研究は環境負債に関連する3つの側面に着眼して、モデル分析を実施した。

(1) 企業の環境負債情報開示に決定に影響を与える経済主体として環境汚染調査機関に焦点を当て、企業と環境規制主体の間の相互依存的な意思決定をモデル化し、企業の環境負債開示が環境規制主体の介入に依存して実務慣習として定着する過程を分析した。

(2) 企業の環境負債として資産除去債務に着目し、その財務諸表認識が及ぼす影響をプリンシパル・エージェントモデルにもとづいて分析した。環境汚染をとまなう企業決定における経営者インセンティブが、環境負債に関する会計基準設定によってどのような影響を受けるかを解明するのが狙いである。

(3) 企業と利害関係者間の契約過程に着目し、企業のコミットメント戦略が債務性概念の形成を通じて、環境負債の財務諸表上の認識に影響を与えることを示すモデルを提

示・分析した。

4. 研究成果

(1) 企業の環境負債開示コストが環境汚染規制主体による環境汚染調査に依存するモデルを考察し、環境負債を財務諸表上で認識する実務慣行が形成される条件の特徴づけを行った。レプリケータ・ダイナミクスにもとづいて環境負債認識の安定性解析を行った結果、環境汚染放置コストにくらべて規制機関が企業の汚染を調査監督するのに要するコストが十分に大きいとき、環境負債を自発的に開示する実務は淘汰され、社会において環境負債を開示しない企業によって社会が占められるようになり、企業活動から生じた汚染は放置されることを明らかにした(図1)。しかし、規制機関の汚染調査コストが十分に小さい場合は、環境負債を自発的に開示する企業が社会の中に占める割合は周期的に振動することを示した(図2)。

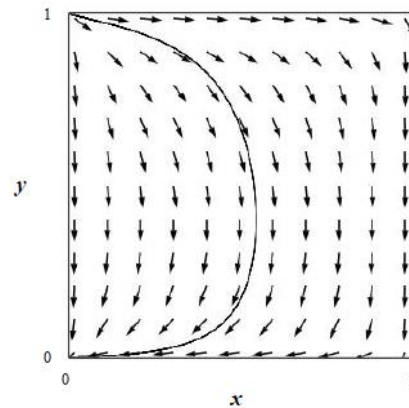


図1 汚染放置を生じる環境負債開示ゲーム

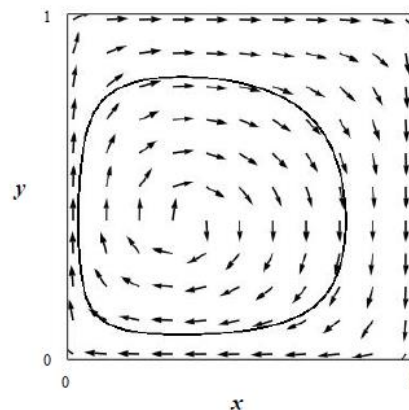


図2 環境負債開示が周期性をもつ環境負債開示ゲーム

(2) 企業と債権者からなる資金調達ゲームにおいて、企業が負債概念を選択するモデルを考察した。分析から、潜在的な環境汚染を発生させている企業が、将来の債務不履行が生じる可能性を利害関係者に伝達し、借入契約において債権者を低水準の利率要求へ誘導する目的から、推定的債務として環境負債を認識するという結果を得た。

(3) 資産除去債務会計の基準公表が、報告利益に依存した経営者業績評価の変化を通じて、資産除去にともなう環境被害コストをとまなう経営決定に影響を及ぼすことを明らかにした。資産取得活動と除去活動におけるキャッシュ・フローの相関が大きいとき、企業は資産除去債務を認識。測定しない会計システムを選択する。この状況で、資産除去債務会計が規定された場合、経営者業績評価システムにおける報告利益への依存が低下し、それとともに経営者行動は、生産・販売活動から、資産のキャッシュ・フロー稼働能力に依存した経営活動へと変化し、環境被害コストの増大をもたらす。加えて、社会的観点から資産除去債務会計の導入の影響をみたとき、環境被害コスト合計が、生産・販売活動より、資産取得活動に大きく依存して発生する場合、会計基準の公表が、環境被害コスト合計を増大させることを示した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 野田 昭宏、環境負債認識におけるコミットメントの機能—推定的債務認識の分析—、社会関連会計研究、査読有、第25号、2013、45-61頁
- ② 大西 靖、野田 昭宏、環境情報開示と社会的評価—定量的な環境開示研究の展開—、社会関連会計研究、査読有、第25号、2013、1-11頁
- ③ 野田 昭宏、環境負債開示の動学分析：レプリケータ・ダイナミクスによる自発的情報開示の安定性解析、経営ディスクロージャー研究、査読有、第12号、2013、1-18頁
- ④ 大西 靖、野田 昭宏、社会環境会計による正統性の管理、社会関連会計研究、査読有、第24号、2012、1-11頁
- ⑤ 野田 昭宏、環境負債の自発的開示：企業の環境情報開示に対する規制の影響、社会関連会計研究、査読有、第24号、2012、95-111頁
- ⑥ 野田 昭宏、環境会計情報の環境コスト分担に及ぼす効果—インセンティブ設計からの基礎的考察—、社会関連会計研究、査読有、第23号、2011、51-69頁
- ⑦ 野田 昭宏、資産除去債務会計が環境コストに及ぼす影響、環境経済・政策研究、査読有、第4巻、第2号、2011、1-11頁

[学会発表] (計17件)

- ① Noda, Akihiro、Saka, Chika、The impact of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、European Accounting Association、2014年5月23

日、Tallinn(Estonia)

- ② 野田 昭宏、阪 智香、CSRディスクロージャーにおけるステイクホルダーの影響分析—同時方程式アプローチ—、日本社会関連会計学会第26回全国大会、2013年11月9日、獨協大学
- ③ 野田 昭宏、環境負債開示の動学分析：レプリケータ・ダイナミクスによる自発的情報開示の安定性解析、日本会計研究学会第72回大会、2013年9月5日、中部大学
- ④ 大西 靖、野田 昭宏、社会環境情報開示における定量的研究の展開、日本会計研究学会第72回大会、2013年9月5日、中部大学
- ⑤ 阪 智香、野田 昭宏、CSRディスクロージャーにおけるステイクホルダーの影響分析、日本会計研究学会第72回大会、2013年9月6日、中部大学
- ⑥ Saka, Chika、Noda, Akihiro、The effects of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、American Accounting Association、2013年8月6日、Anaheim (USA)
- ⑦ Saka, Chika、Noda, Akihiro、The effects of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、The Seventh Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting Conference、2013年7月27日、神戸大学
- ⑧ Saka, Chika、Noda, Akihiro、The effects of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、International Association for Accounting Education and Research 2013 Conference、2013年6月13日、Bucharest (Romania)
- ⑨ Noda, Akihiro、Saka, Chika、The effects of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、European Accounting Association 36th Annual Congress、2013年5月8日、Paris (France)
- ⑩ Noda, Akihiro、Saka, Chika、The effects of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、Centre for Social & Environmental Accounting Research 2nd France Congress、2013年5月3日、Montpellier (France)
- ⑪ Saka, Chika、Noda, Akihiro、The Value Relevance of Asset Retirement Obligations: Evidence from Japan、International Association for Accounting Education and Research 2013 International Accounting Conference、2013年2月、Frankfurt (Germany)
- ⑫ Noda, Akihiro、Saka, Chika、The Value Relevance of Asset Retirement Obligations: Evidence from Japan、Taiwan Accounting Association、2012 Accounting Theory and Practice Conference、2012年12月4日、National

Taiwan University (Taiwan)

- ⑬ 野田 昭宏、阪 智香、資産除去債務会計基準適用初年度の影響分析、日本社会関連会計学会全国大会、2012年11月10日、大阪市立大学
- ⑭ Saka, Chika、Noda, Akihiro、Kokubu, Katsuhiko、The Value Relevance of the Recognition of Soil Re-remediation Costs and Liabilities: Evidence from Japan、American Accounting Association Annual Meeting、2012年8月、Washington, D. C. (USA)
- ⑮ Saka, Chika、Noda, Akihiro、Kokubu, Katsuhiko、The Value Relevance of the Recognition of Soil Re-remediation Costs and Liabilities: Evidence from Japan、Korean Accounting Association Annual Conference、2012年6月、SOL beach resort (Korea)
- ⑯ Saka, Chika、Noda, Akihiro、Kokubu, Katsuhiko、The Value Relevance of the Recognition of Soil Remediation Costs and Liabilities: Evidence from Japan、European Accounting Association 35th Annual Congress、2012年5月、Ljubljana (Slovenia)
- ⑰ 野田 昭宏、階層的契約過程における環境コスト分担、環境経済・政策学会 2011年大会、2011年9月、長崎大学

〔図書〕(計 1件)

- ① 阪 智香、野田 昭宏、中央経済社、『環境経営イノベーション 6 社会環境情報ディスクロージャーの展開』、2012年、127-145頁

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

- ① Saka, Chika、Noda, Akihiro、Kokubu, Katsuhiko、The value relevance of the recognition of soil remediation costs and liabilities: evidence from Japan、http://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=2012903
- ② Saka, Chika、Noda, Akihiro、The effects of stakeholders on CSR disclosure: evidence from Japan、http://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=2239469

6. 研究組織

(1) 研究代表者

野田 昭宏 (NODA, Akihiro)
東京都市大学・環境学部・講師
研究者番号：40350235

(2) 研究分担者

阪 智香 (SAKA, Chika)
関西学院大学・商学部・教授
研究者番号：10309403

(3) 連携研究者

()

研究者番号：